

# 平成 25 年 度 事 業 報 告 書

平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで

特定非営利活動法人 3keys

## 1 事業の成果

### <学習支援事業>

#### ①学習ボランティア（まなボラ）の登録状況

当団体では学習支援事業に携わる家庭教師を公募するのではなく、子どもたちの個人情報などを守るために、学習ボランティアとして登録をした「まなボラ」にのみ、児童福祉施設をはじめとした子どもたちからの依頼内容を配信している。そのまなボラとなってもらうために研修も兼ねた登録会を開催しており、2012年度からは登録会の定形化と伴って定期開催できるようになった。

2013年度は株式会社HRインスティテュート様のご協力のもと、会場を固定して実施することができたことから年間の計画を前もって定めて登録会を実施することができた。その結果、登録会の運営方法をさらに固定化することができ、安定的に運営することができた。また運営が安定したことによって、研修内容の見直しや、運営マニュアルの作成・見直しなどに時間を割くことができ、満足度が高い登録会を実施することができた。さらにはボランティア登録情報の管理体制なども整備され、登録者の属性なども簡単に確認することができるようになった。その結果、選抜体制の改善や、広報体制の強化などにもつなげることができた。

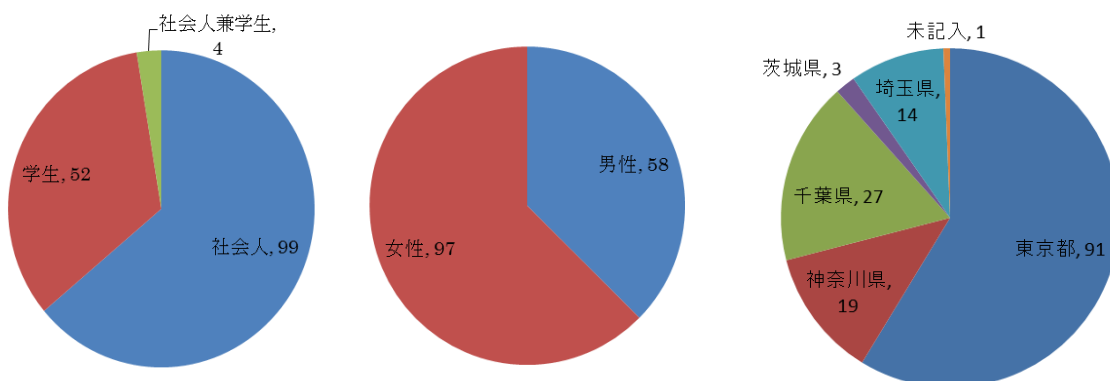
#### ●登録会開催頻度と登録者数の推移

	2011年度	2012年度	2013年度
登録会（旧説明会）開催頻度	4回	7回	8回
新規登録者数	64名	151名	155名
述べ登録者数	176名	327名	482名

#### ●2013年度登録会参加者の満足度の推移

登録会日付	4月21日	5月26日	6月30日	8月24日	9月28日	11月30日	1月11日	3月1日
大変満足	15	13	14	8	8	10	11	10
やや満足	5	4	3	8	13	11	8	10
どちらとも いえない	2	0	1	0	1	1	0	0
やや不満	1	0	0	0	0	0	0	0
不満	0	0	0	0	0	0	0	0
未記入	1	0	1	1	0	0	0	0

#### ●2013年度 新規登録者の属性（※単位：人 総数155人）



## ② 利用者の属性と推移

2012年度は寄付による日常的な運営だけでなく、独立行政法人福祉医療機構の助成金のもと、内部の管理体制を強化し、トラブルの未然防止や安定的な運営を目指した。その結果、2013年度はスタッフが安定的に子どもたちの支援に携わることができた。またその結果、2012年度は内部体制の強化に注力したことに伴って一時記新規利用者数が減少したが2013年度は新規利用者数を増やすことができた。

### ●利用施設・利用者数の推移

	2011年度以前	2012年度	2013年度
新規利用施設数	5	11	4
延べ利用施設数	5	16	20
新規利用者数	123	40	64
延べ利用者数	123	159	223
備考		家庭教師型 26名 教室型 10名  2012年度に契約体制を導入し、2011年度以前から利用はしていたものの、契約を結んだ施設は全て2012年度に新規利用施設としてカウントしています。	家庭教師型27名 教室型37名

※2013年度に契約体制や利用人数のカウント方法を変更しているため、過去の資料と数値が異なる可能性があります。

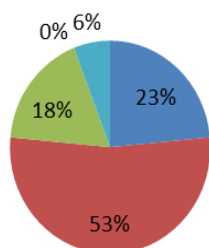
## ③ 家庭教師型プログラムの成果（主たる対象：中高生）

### ●利用者アンケート結果

子どもの目標達成度については、当初掲げた目標が適切でなかったり、子どもの自身への評価が低かったり、相性の問題など多少の課題が残るものの、おおむね目標を達成することができたことに加え、家庭教師であるチューターへの満足度も非常に高いものとなった。研修内容や、マッチング・選抜方法の改善、チューターのフォロー体制の改善などが、子どもの目標達成度や満足度を高めることになったように感じる。

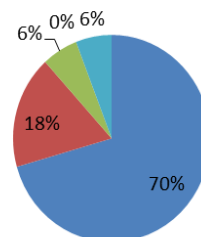
### 目標達成度(子ども自己評価)

- 5.十分に達成できた
- 4.達成できた
- 3.どちらともいえない
- 2.達成できなかった
- 1.全く達成できなかった



### チューター(家庭教師)の総合満足度 (子どもからの評価)

- 5.とても満足
- 4.満足
- 3.どちらともいえない
- 2. 不満
- 1.とても不満



※アンケートは2013年度に指導が終結した17名に調査。

### ★自由回答から一部抜粋（子ども回答）

- ・詳しい説明のおかげで歴史の流れをつかめた。法令など時代を前後する質問のおかげで、より理解力が深まったと思う。
- ・優しい人で良く話を聞いてくれて、勉強もわかりやすかったです。
- ・もっと世界史に興味を持てるような豆知識も教えてくれて楽しかった。
- ・前回の授業で理解しにくかった所を調べてきてくれてわかりやすく教えてくれたり、説明が丁寧ですごくわかりやすかったです
- ・とても楽しく勉強は出来たのですが、分からない箇所のせつめいが分からない時が時々あった事です。
- ・とても分かりやすい解説を頂けた。自分でも力がついて行くのを感じることができた。
- ・苦手だった英語がここまで読めるようになると、自信にも繋がりました！長い文章でも分解せずとも大体は理解できるので、大学でも大変役立ってます！

### ★自由回答から一部抜粋（職員・保護者回答）

※一部子どもの個人情報が入っている内容は修正をしております。

- ・チューターさんにはお忙しい中、足を運んで学習指導をしていただいたこと、感謝申し上げます。色々工夫をしながらの指導で大変だったと思います。その点に我々がフォローしきれず申し訳ありませんでした。是非今後も子ども達への学習支援をやっていって頂けたらと思います。ありがとうございました。
- ・短い期間でしたが、毎回丁寧な指導をありがとうございました。お忙しい中、寒い中、休まず来ていただいたことにも感謝しています。
- ・異性ということもありとても大変だったこともあったと思いますが長い間ありがとうございました。子どももとても信頼していて、職員も安心して任せることが出来ました。本当にありがとうございました。
- ・人見知りが激しい本児に合った対応をしていただき感謝しています。最後まで前向きに取り組めたことは本児にとっても自信につながっているのではないかと思います。また、時間や日程変更などにも柔軟に対応していただき、ご迷惑をおかけしたこともございますが丁寧なご指導ありがとうございました。
- ・高校合格直後に児童は「チューターさんのお陰だね」と言っており、改めて熱心なご指導を頂けていたことを感じました。この半年間で教えていただいている事は、学習だけでなく、今後の生活において様々な場面で彼に影響を与えていきそうです。職員一同を代表して改めて感謝の意を表させていただきます。ありがとうございました。
- ・世界史の指導開始時のレベルは目標とする学校には程遠く、とても心配しておりましたが、チューターさんのご指導によりメキメキと実力を伸ばすことができました。指導開始前、世界史の勉強に対して（子供から）少々後ろ向きな発言があったのですが、受験生としての意識が芽生え、指導開始前に少し早く来て自主勉強をしている姿には感動を覚えました。年齢の近いチューターさんは「頼れるお姉さん」のような存在だったのだと思います。ご指導ありがとうございました。職員一同心より感謝申し上げます。

#### ④ 教室型プログラムの成果及び課題（主たる対象:小学生）

日本財団からの助成と、企業からの法人寄付をもとに、かねてから課題となっていた小学生に対する早期支援プログラムを2教室から5つの教室に拡大して展開することを目標に掲げて実施した。さらには他NPOや学生のボランティアサークルなどと連携した形でプログラムを実施することで、より継続的かつ地域に根差した形での教室運営を目標に掲げた。

達成状況としては予定通り5つの教室で展開することができたものの、他NPOや学生サークルとの連携では困難が多く実現にはいたらなかった。教室が運営されている曜日に子どもたちが安定的に通い、大人の見守りの中で落ち着いて学習に取り組むというところは、選抜・研修体制に加え、少人数体制の実現や、スモールステップかつ無学年式教材をベースにした学習環境づくりによって実現することができたが、教室を運営していない残りの日に学習（教室からの宿題）に取り組んでもらうことに関しては、子どもの学習習慣や保護者の意識や生活環境の雰囲気などによって大きく左右された。低予算のまま格差を解消するためには、より早期支援を実施するか、自治体や学校などと連携した形で、週2-3日以上は複数の大人の見守りがある環境下で学習を取り組ませていかなければ、格差の解消は難しいという検証結果となった。

また今年度は他NPOやサークルなどへヒアリング・調査なども行い、地域密着型のNPOなどと連携した形で進められる余地があるかを検討したが、地域に根差したNPOやサークルで特に若い人が中心となっている活動は限りなく少なく、安定的な人の供給はどこの団体も課題として抱えていた。大きなNPOやサークルは、人の入れ替えが多いことを前提としており、1-2回の関わりや1か月以内の関わりを前提にしていることが多々あり、問題解決という観点から子どもたちに継続的に関わる仕組みを作れる組織は少なく、民間の力だけでより早期の段階での格差解消を担っていくことは非常に困難が多いということを検証できた。

当団体や行政予算、そして他地域の厳しい予算の状況なども教材利用を想定していた企業に理解していただき、これまで教材費として支払っていた費用を無償化していただいたり、厳しい予算だからこそあらゆる企業から積極的に寄付の協力をいただくことができた。しかし、どの企業も継続的な支援は見込めない中で、1-2年スパンでの寄付をどのように効率的に利用・運用していくのかについて、より画期的な手法で今回の問題にアプローチする必要性を感じたのと同時に、再配分などを担う行政との引き続きの交渉が必要であることを企業との連携においても実感した。

##### <施設職員の声>

- 宿題も休日は午前中に、平日は帰宅後にと自分で決めて自主的におこなっています。このまま継続し、自信につなげて欲しいです。今後とも宜しくお願いいたします。
- 算数に取り組めるようになったことがとても良かったと思います。反復練習を行い、基礎学力が身に付けば、今後につながると思います。様子をみながら国語にも取り組めるよう、促していけたらなと思っています。
- (3keysの)宿題への取り組みの促しはホーム(施設)の方でも声かけているのですが、平日は学校の宿題で手一杯で取り組みないことが多いです。少しでも手をつけられるよう声かけは続けていきたいと思っていますので今後とも宜しくお願いいたします。

#### ⑤その他の取り組み

##### ●里親家庭への支援

社会的養護下にいる子どもたちのほとんどは児童養護施設をはじめとした福祉施設に暮らしているのが現状だが、少しずつ里親や養子縁組に対する動きもできている。3keysも里親や養子縁組が少しでも広がるよう貢献したいと考えている。里親家庭に行く子どもたちも児童養護施設で暮らしている子どもたち同様、元の家庭環境の厳しさなどから、学習において大幅に遅れがあったり、接していくうえで最低限の研修が必要となることから、江東区児童相談所と連携をし当団体の登録ボランティア(まなボラ)に里親家庭での学習指導の呼びかけを行い、里親家庭での学習支援を行った。その経過なども追っていきながら、里親家庭での学習支援のニーズや、課題などを探していくつもりだ。

##### ●学校や行政機関などとの意見交換

社会保障が十分に行き届いていない子どもたちへの支援を民間として行いつつ、そこで見えてきたことや、民間の限界などを行政や学校などと意見交換をしていながら、制度の充実化につなげていくということも2013年度から積極的に行っている。意見交換の場に声がかかることも増えてきた1年でもあった。

##### ●学習支援事業名の変更

学習支援事業名を「学習支援事業prêle」と定め、利用者から覚えやすく、言いやすい名前に変更した。prêleはフランス語で「つくし」のように小さくても強く生きていけるようにという意味を込めました。

## <啓発活動事業>

### ① メディアでの発信の強化

これまではインタビューベースの受動的な発信が多かったのに対して、子どもの現状についての発信を講演やSNSなどで発信を続けることで、執筆の機会などにつなげていき、より長文の執筆の機会を多々いただくことになった。その結果、子どもたちが置かれた現状について表面的な要素だけでなく、より深い話について共有・発信することができたように感じる。

### ●2013年度メディア掲載実績（一部抜粋）

掲載日	掲載種類	掲載媒体詳細	タイトル
2013/4/1	雑誌	POCO21 5月号	施設の子どもたちに学びの基盤を
2013/5/17	執筆	オルタナS	【NPOの仕事術】ボランティアスタッフとの向き合い方
2013/6/21	ラジオ	FM 横浜ラジオ	「Yokohama social cafe」
2013/6/28	ラジオ	FM 横浜ラジオ	「Yokohama social cafe」
2013/7/1	執筆	子どもと福祉 vol.6	児童養護施設での学習支援の標準化を目指して
2013/7/5	新聞	ふえみん No.3027	どんな環境にいても十分な教育を
2013/8/1	雑誌	ソトコト第15巻8月号	現代版の助け合いの社会をつくる
2013/10/9	書籍	社会起業家になるには Vol.138	「教育格差」という社会問題に立ち向かう
2013/11/2	雑誌	AERA(No.47)	2020年の主役50人
2013/11/6	WEB記事	現代ビジネス	児童養護施設の子供たちへの学習支援と、現代版の助け合いについて
2013/12/7	雑誌	日経WOMAN	ウーマンオブザイヤー2014 特集
2014/1/2	執筆	現代ビジネス	国にしか頼れない子どもの国以外のセーフティネット作りを目指して
2014/1/16	執筆	ひみつ基地	子どもを支援する前に知っていて欲しい実状—ランドセルの寄付は換金された？支援者と現場のミスマッチ
2014/2/28	雑誌	オルタナ別冊(3月号)	会社選びのモノサシを「志」で決めた若者たち
2014/3/8	WEB記事	広報スタートアップのススメ	特定非営利活動法人 3keys～ビジネスありきではなく本当に社会にとって必要なこと～

### ② Child Issue Seminarの実施

オラクル有志ボランティアの会の助成金のもとで、子どもを取り巻く社会問題について学ぶ連続講座のChild Issue Seminarの実施を行った。地域コミュニティの崩壊や核家族化といった人間関係の変化や、交通や経済の発展などによる経済の変化に伴って、変化してきた子どもや家庭の事情を多様な視点から考えるための啓発事業である。家族・地域・仕事・学校・政治と社会という5つのテーマのそれぞれの分野で活躍している方をお招きし、これまで子どもの分野に興味・関心が低い層を主なターゲットにイベントを開催することを目標にした。

- 第1回目 講師：高橋亜美氏 テーマ：家庭
- 第2回目 講師：高濱正伸氏 テーマ：地域
- 第3回目 講師：出口治明氏 テーマ：仕事
- 第4回目 講師：鈴木寛氏 テーマ：学校
- 第5回目 講師：湯浅誠氏 テーマ：政治・社会

会場も5回中4回は日本マイクロソフト社で実施したり、お付き合いのある企業の社内で配布していただく等して、子どもというテーマでこれまで参加することの少なかった20-40代の男性の参加も促す努力も行った。達成状況としては、これまで当団体とのつながりのない人の参加は目立ったことに加え、講演や取

材といった話す内容や長さなども受動的にしか決められないような機会が多かったのに対して、こちらの意図をより主体的・能動的に伝えられる機会が増えた。その結果、よりこちらが伝えたい内容を発信したり、連携先の開拓にもつながったように感じる。

ただ、まだまだもともと子どもの教育・福祉に興味あまりなかった人たちへのアプローチにはまだ苦戦している状況である。告知媒体も低価格のものはボランティアやNPOのためのポータルサイトが多く、もともと興味関心のない人へのアプローチ方法がまだ大幅に不足しているように感じた。なお、助成金をもとに運営した初年度にボランティアによる運営体制のベースが整ったことから、2014年度以降も継続して行っていくことになった。翌年度はより多様な人の参加を促すための仕掛けづくりなどにより注力していくことが課題として残っている。

### <法人全体の動き>

2013年度末、理事会・総会を開催し、3keysの活動の目的や事業内容を拡大しました。これまで主に児童養護施設にいる子どもたちを対象に行ってきた活動ですが、日本では6人に1人の子どもが貧困下に置かれており、虐待やネグレクト、教育格差などは児童養護施設にいる子どもたちに限らない社会全体の課題となってきました。

児童養護施設に限らず格差の下にいる子どもたちや社会保障が十分に行き届かない子どもたちすべてを対象にする活動として当団体の活動を再定義させていただき、また活動内容も学習支援を目的としているのではなく、すべての子どもたちの社会保障の充実化、自立の促進などを目的と定め直しました。

以下が定款上の主たる変更点となります。

#### 第3条 目的（新）

この法人は、日本の子どもたちのために、生まれ育った環境によらず、自立や権利保障の観点から必要な支援・情報が十分に行き届く社会の創造に寄与することを目的とする。

#### 第3条 目的（旧）

この法人は、児童養護施設で暮らす子どもたちをはじめとする、学習機会や学習環境に恵まれない子どもたちに対して、学習支援に関する事業を行い、すべての子どもたちが学ぶ機会に出会い自らの可能性に気づくことで希望をもてる社会の創造に寄与することを目的とする。

#### 第5条 事業（新）

この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- (1) 格差の下にいる子どもたちをはじめとする、学習機会や学習環境に恵まれない子どもたちのために、学習指導を行うボランティアを育成しマッチングする事業
- (2) 日本の子どもたちの現状や、それを取り巻く社会の現状を広域的に周知するための、啓発活動及び広報活動
- (3) 子どもたちに必要な社会資源をコーディネートし子どもたちの自立及び権利保障を充実させる事業
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

#### 第5条 事業（旧）

この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- (1) 児童養護施設で暮らす子どもたちをはじめとする、学習機会や学習環境に恵まれない子どもたちのために、学習指導を行うボランティアを育成し、児童養護施設に派遣する事業
- (2) 児童養護施設における学習支援及び自立支援の広域的普及のための、啓発活動及び広報活動

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
格差の下にいる子どもたちをはじめとする、学習機会や学習環境に恵まれない子どもたちのために、学習指導を行うボランティアを育成しマッチングする事業	児童養護施設を中心とした児童福祉施設に対して、学習支援サービスの提供や学習ボランティアの研修・育成・紹介を行う	平成25年4月1日から平成26年3月31日まで	東京都、神奈川県、千葉県	有給延べ4名 ボランティアスタッフ延べ17名	東京近郊にいる児童福祉施設や里親の元に暮らす中高生が受益者対象 直接支援者は新規63名増	7,554
日本の子どもたちの現状や、それを取り巻く社会の現状を広域的に周知するための、啓発活動及び広報活動	児童養護施設や児童虐待の現状について社会に伝え、支援者を募る	平成25年4月1日から平成26年3月31日まで	全国	有給2名 ボランティアスタッフ延べ5名	対象者範囲は無制限 講演などで直接的に受益した人は推定1200名以上(メディアなどによる発信を除く)	2,314

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	事業費の金額(千円)